

京都市消防局「西ノ京寮」新築工事に伴う発掘調査の概要

遺跡名	平安京右京二条十五町・史跡御土居（濠）隣接地
調査地	京都市中京区西ノ京中御門東町49
調査主体	(財)京都市埋蔵文化財研究所
調査期間	2000年5月25日～調査中

調査の経過

調査は南地区（1区＝約240m²）から開始、7月14日に終了した。引き続いて北地区（2区＝約230m²）の調査を開始、現在、図面作成などの記録作業を実施している。

検出した遺構

南地区（1区）では、平安時代中期の柱穴、土壌を多数検出した。建物か柵に関係したものと考えられる。北地区（2区）では、平安時代中期の柱穴、土壌、井戸、南北朝時代の石積み井戸が検出されている。

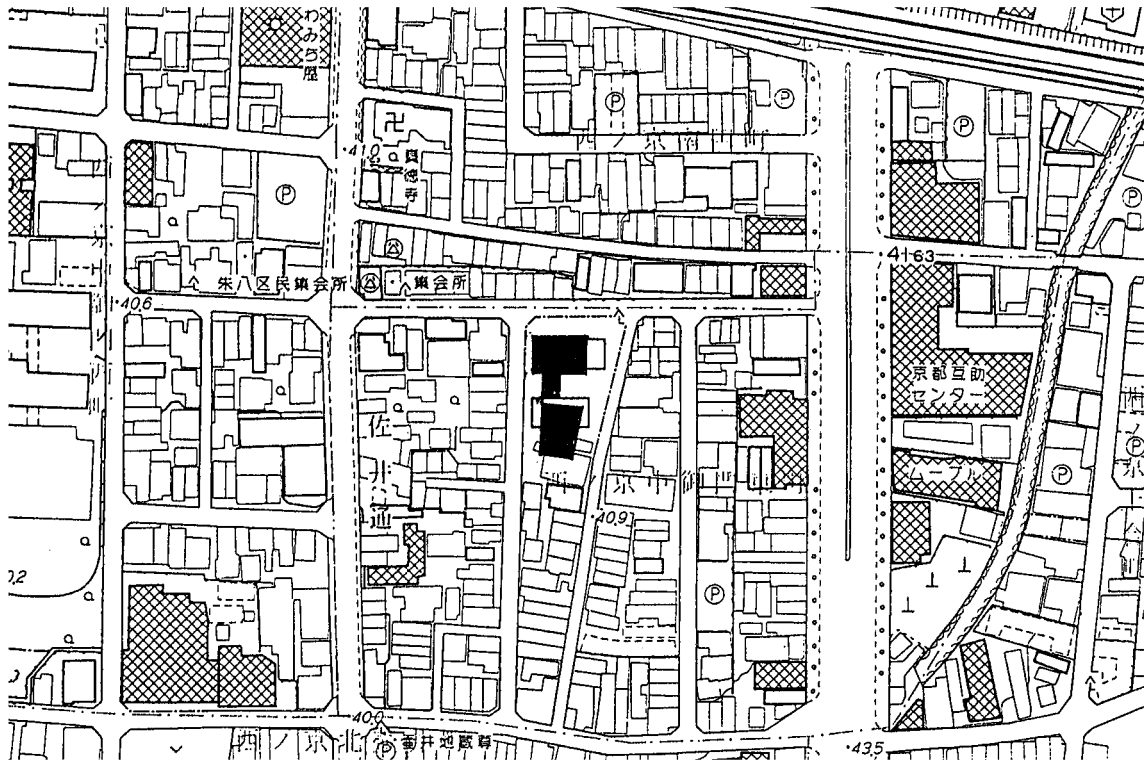
出土した遺物

南地区（1区）の柱穴・土壌を中心に、平安時代中期の土師器皿・高杯・釜・甕、須恵器杯・壺・甕、黒色土器碗・皿・甕、灰釉陶器碗・皿、緑釉陶器碗・皿、青磁碗、白磁碗・皿、石製品石帯、銭貨（富寿神宝）、瓦（軒平・軒丸）などが出土した。

北地区（2区）では、平安時代中期の井戸から土師器皿、須恵器甕、緑釉陶器碗・皿などが出土している。室町時代前期（南北朝時代）の井戸からは、土師器皿、陶器・壺、瓦器皿などが出土している。その他特殊な遺物として緑釉瓦の破片が出土した。

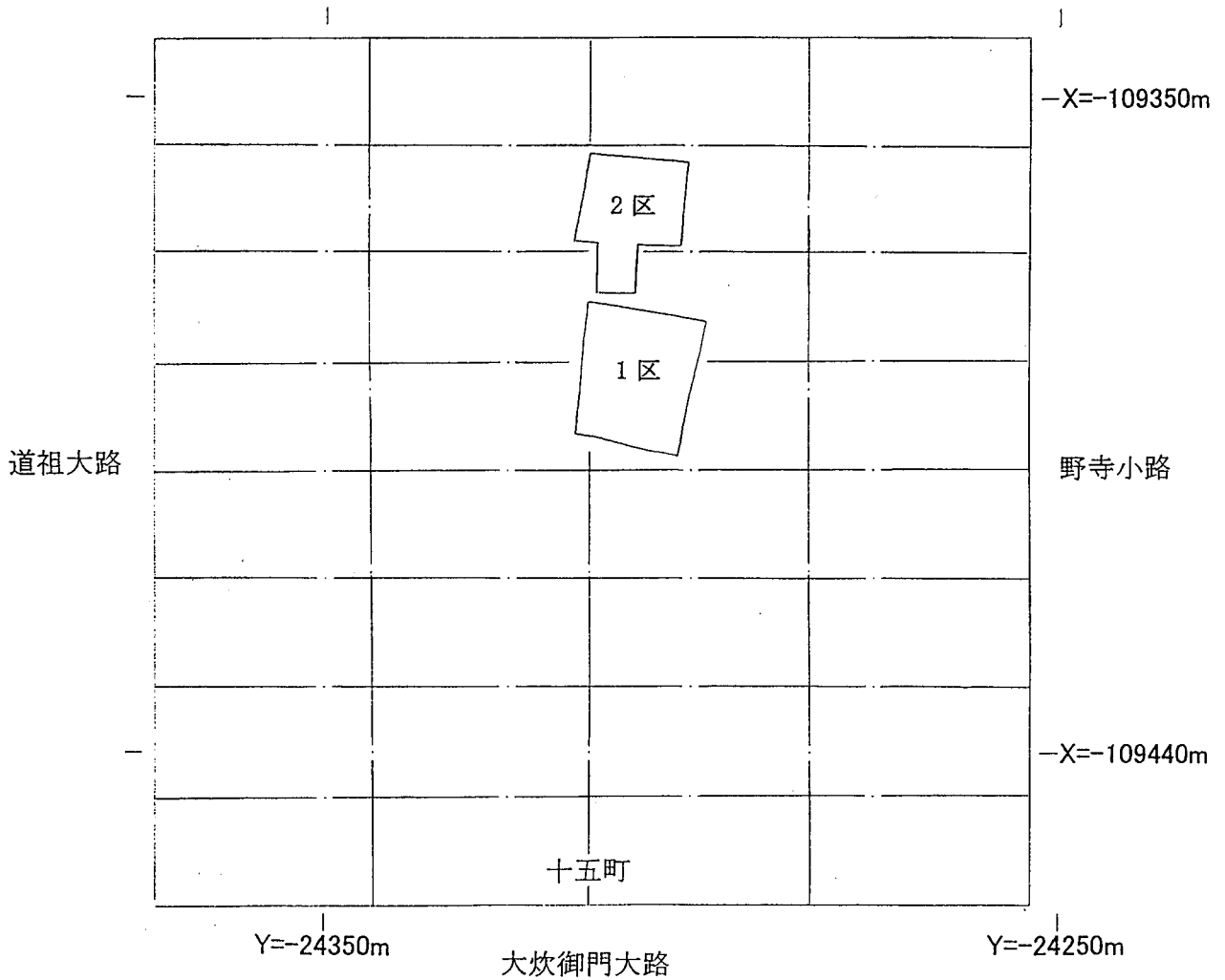
遺跡の変遷

調査地は右京二条二坊十五町の中央やや北側に位置している。十五町地のこの地区は、平安時代中期に、宅地としての利用が活発になる。多数の柱穴群の検出は、小規模な建物が繁茂に建て替えられたことを示している。平安時代後期、鎌倉時代の遺構は全く認められない。室町時代前期（南北朝時代）に、井戸などの遺構が出現し、居住の痕跡が認められる。しかし室町時代中期には早くも廃れてしまう。以後、江戸時代を通じて田園の景観が続き、明治時代以降に、現在のような宅地化が始まったと言えよう。

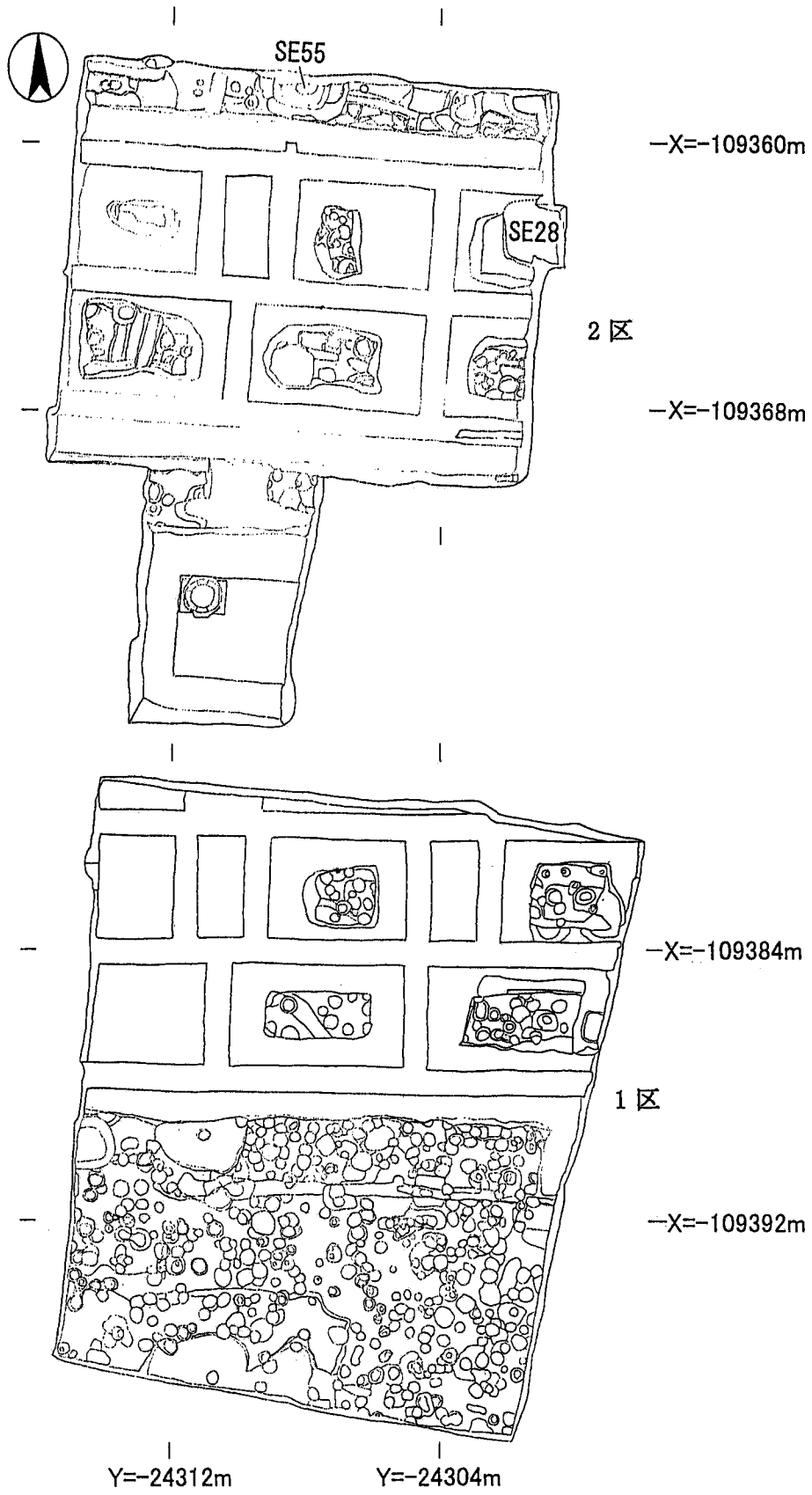


調査位置図 (S=1 : 2500) ND63-2 L42 48 花園

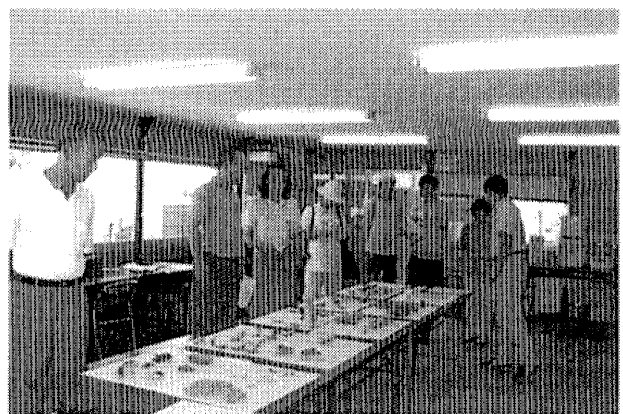
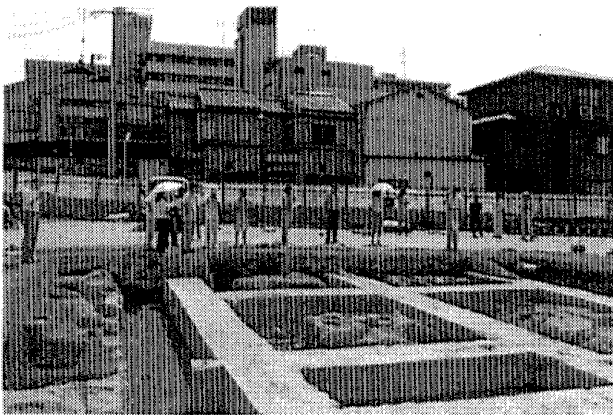
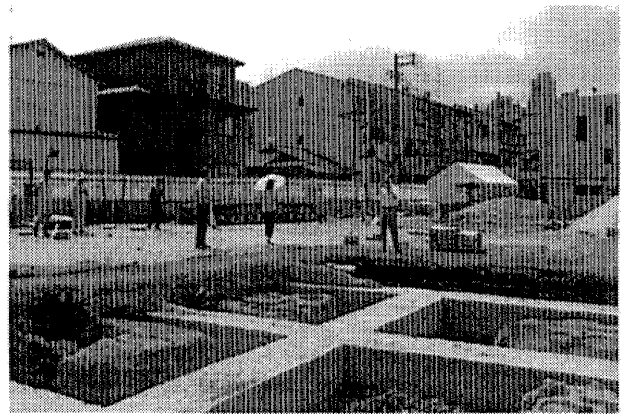
春日小路



平安京右京二条二坊十五町地 調査区配置図 (S=1 : 1000)



平面図 (S=1 : 200)



円町消防 2000年8月19日(土) 10:00~12:00
現場解放風景